

一番軸
西町

攀鱗閣

はんなりかく



三役

振付 川村和彦
太夫 竹本和賀太夫
三味線 豊澤賀祝

神持

岩田 政汰朗（6才）

御幣持

菱田 朔玖（6才）

配役

政岡

清水 康介（11才）

栄御前

澤島 聡志（10才）

八汐

岩田 紘輝（11才）

千松

山田 暖大（8才）

三番叟 鶴千代

外花 竜輝（10才）

二番軸
中町

紫雲閣

しうんかく



三役

振付 岩井小紫八
太夫 竹本龍豊
三味線 豊澤湊祝

神持

鈴木 惟央利（5才）

御幣持

平野 達大（6才）

配役

曾我十郎祐成

繁友 雄喜（11才）

母 満江

近藤 亮謙（11才）

曾我五郎時致

星野 響輝（10才）

禅師坊 実江

村西 景仁（9才）

芸題 「伽羅先代萩」

御殿の場

あらすじ

足利家の当主頼兼は、叔父らの策略によりその座を奪われ毎日のように廊下を歩いている。当主となった鶴千代を守るため、乳母の政岡は、男を嫌う病気になる。女性ばかりの御殿で守り育てます。食事を満足に取れない鶴千代のために、政岡は茶道具でご飯を炊き、二人に食べさせています。その最中、栄御前が持参した菓子を鶴千代に与えようとするのですが、その時、千松がその菓子を掴んで口に入れ、苦しみます。お菓子には毒が入っていたのです。毒殺の嫌疑がかかるのを恐れた八汐は、無礼者と懐剣を千松に刺してしまいます。その間、顔色を変えず見守っていた政岡を見て、逆臣の一味と勘違いした栄御前は、仁木弾正一味の連判の巻物を預けて帰って行きます。見送った後、政岡は千松の死を嘆き泣き崩れますが、襲いかかってきた八汐を切り、千松の仇をとります。

芸題 蝶千鳥曾我物語

中村閑居の場

あらすじ

平安時代の末、工藤祐経は復讐のために伊藤祐親を殺そうとしたが、あやまって祐親の息子河津三郎を殺してしまう。三郎の妻満江は身重で、二人の息子があつたが、その後生まれた子は養子にやり、二人の息子を連れて曾我祐信と再婚する。成人した息子達は兄は十郎祐成、弟は五郎時致と名乗る。五郎は箱根山へ修行に出されたが、勝手に寺を抜け出して元服する。腹を立てた満江は五郎を勘当する。建久四年五月、この日は亡き河津三郎の命日。十郎と五郎は翌日富士の裾野の狩場で父の敵、工藤を討とうと決めていたが、母満江は五郎の勘当を許そうとしない。そこへ養子に行った末の弟、禅師坊実江が親兄弟を訪ねて越後からやって来る。禅師坊は鳥目で夜になると目が見えない。癪をおこし宿を借りた家の住人が十郎である事にも気付かない。十郎は禅師坊が仇討の足手まといになる事をおそれ、満江は旅に出て、兄達も死んだと嘘を言い越後へ帰そうとするが、また癪をおこしたので、しばらく小部屋で休ませる。それから十郎は五郎の勘当を解いて欲しいと説得するが、満江は聞き入れない。仕方なく十郎は五郎に切腹するよう言う。五郎は嫌だと怒るが、実は母に承知させる為のひと芝居だった。この間は二人の無言の芝居となり、見所の一つである。五郎がまさに切腹しようとする時、満江は勘当を許す。だがその時、禅師坊は五郎の勘当を許してもらおうと、自害していた。母兄達が悲しむ中、夜が明けて禅師坊の目が見えるようになり、親兄弟の最期の対面が叶い息を引き取る。深い悲しみの中、十郎五郎は母満江から、父の片身の小袖を譲り受け、父の仇討に出発するのであった。

五月二日 試楽

① 一・一・〇〇 愛宕神社前
② 二・二・三五 宮町地内
③ 一四・〇〇 幸和町地内
④ 一七・一〇 登り奉芸
⑤ 一九・〇〇 神前奉芸
⑥ 二一・〇〇 本町地内

五月三日 本楽

〇・〇〇 起きたり
五・〇〇 神前据付
一・〇〇 古式練込み
① 二・二・〇五 神前奉芸
② 一三・二五 西町客軸
③ 一四・四五 中町客軸
④ 一六・〇五 東町客軸
⑤ 二〇・〇〇 三町すりかすり

五月四日 後宴

① 二・二・〇〇 泉地内(泉・御所の芸)
② 一四・〇〇 前川橋詰
③ 一五・三〇 前川地内(西組)
④ 一八・二〇 青年の芸
⑤ 二〇・三〇 千秋楽

雨天時には変更があります。

五月二日 試楽

① 一・一・〇〇 愛宕神社奉芸
② 二・二・五〇 南筋の芸
③ 一四・一〇 神田の芸
④ 一七・一五 登り軸
⑤ 二〇・一〇 下り軸

五月三日 本楽

〇・〇〇 起きたり
一・〇〇 古式練込み
① 一三・二五 神前奉芸
② 一四・四五 西町客軸
③ 一六・二〇 中町客軸
④ 二〇・〇〇 三町すりかすり
⑤ 二〇・四五 東町客軸
⑥ 二二・一〇 二町すりかすり

五月四日 後宴

① 二・二・〇〇 北筋相生・幸和町(の芸)
② 一三・二〇 西組(中央)の芸
③ 一四・三〇 東組(三友)の芸
④ 一六・〇〇 親紹介
⑤ 一八・一〇 千秋楽

雨天時には変更があります。

